



吉田松陰（自筆）  
山口県立歴史博物館蔵



吉田松陰神社  
香取の町に五ノ坪子

# 吉田松陰と徳富蘇峰 蘇峰の收藏品展

2015年2月3日（火）～2016年1月31日（日）



## 戦時下の三島由紀夫

—学習院高等科時代— リニューアル

好評につき、2015年5月17日（日）まで開催

徳富蘇峰館・三島由紀夫文学館（※）にて開催

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296 <http://www.mishimayukio.jp>

入館料：大人 500 円、高校・大学生 300 円、小・中学生 100 円 ※ 10 名様以上から団体料金 (50 円割引) ※ 三島由紀夫文学館、徳富蘇峰館共通チケット

開館時間：午前 10 時～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）

休館日：月曜日（祝祭日の場合はその翌日）、12 月 29 日～1 月 3 日、資料点検日（不定期）※ 4 月 28 日～5 月 6 日の間は月曜日も開館

主催：山中湖文学の森 三島由紀夫文学館・徳富蘇峰館、山中湖村教育委員会

山中湖文学の森 三島由紀夫文学館・徳富蘇峰館



# 吉田松陰と徳富蘇峰

## ～蘇峰の收藏品展～

言論人であった徳富蘇峰にとって、吉田松陰は非常に重要な存在でありました。時代の相違から直接的に相見えることはなかったものの、他の歴史的な重要人物と同様に、蘇峰も大きな影響を与えられた一人でもあります。蘇峰は20歳の時に私塾大江義塾を熊本で開校しますが、その教育実践のモデルとなったのは吉田松陰の『松下村塾』でした。さらに蘇峰は、だれもが躊躇したといわれる松陰の自伝を、松陰の死後初めて手掛け、「吉田松陰」(民友社 昭和26年12月)を上梓するという偉業を成し遂げます。

また、伊藤博文や山縣有朋、桂太郎など、吉田松陰の流れを汲み、当時の日本を動かしていた人物との関わりが、蘇峰にとってどれだけ大切であったかは、蘇峰が所有していた膨大な資料の中から窺い知ることができます。

この度の企画展では、收藏品の中から、著書を中心とした吉田松陰の資料、そして吉田松陰にまつわる人物の資料を展示いたしております。これらの貴重な資料から、蘇峰に多大な影響を与え、現在の日本の礎を築いた吉田松陰を知って頂けたら幸いです。



吉田松陰像(自賛)  
山口県立図書館提供



吉田松陰像(自賛)  
世田谷 松陰神社提供



大江義塾 最後の写真

## ～吉田松陰の生涯～

吉田松陰は、天保元年(1830)8月4日長州藩、萩の松本村で毛利藩士であった杉百合之助の次男として誕生。通称寅次郎。長州藩士であり、兵学者、教育者としても活躍した。

日本国を守るため、ペリー率いる黒船に乗り込むという大罪を犯し、伝馬町の獄に投獄されることとなる。1年8か月の獄中生活を終え、自宅にて「松下村塾」を開き、高杉晋作を初め久坂玄瑞、伊藤博文、山縣有朋など、後の明治維新を成し遂げた数多くの門下生を育て上げる。老中暗殺計画を自供した松陰は、安政6年10月27日伝馬町獄舎で処刑され、30歳で生涯を終える。

参考文献:松陰神社「御祭神(吉田松陰先生)について」



### 【交通のご案内】

- 路線バス ▶ 富士山駅(富士吉田)から25分、御殿場駅から40分  
文学の森公園前バス停下車 徒歩5分
- 高速バス ▶ 中央高速バスで山中湖(旭丘バスターミナル)下車 徒歩15分
- マイカー ▶ 山中湖ICから国道138号線を山中湖方面へ4km

### 【休館日】

月曜日(祝祭日の場合はその翌日)、12月29日～1月3日、資料点検日(不定期)  
※4月28日～5月6日の間は月曜日も開館

### 徳富蘇峰館 展示室 I にて開催

【開館時間】 午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

### 【入館料】

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人	500	300	100
団体	450	250	50

※団体10名様以上 ※三島由紀夫文学館、徳富蘇峰館 両館共通チケット

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296  
TEL 0555-20-2655 FAX 0555-20-2656  
<http://www.mishimayukio.jp/>

山中湖文学の森 徳富蘇峰館